

大会宣言

本日、私たちは『大阪市立市民交流センターひがしよどがわ』において、第17回定期大会を開催し、向こう一年間の闘う方針を確立した。

3月11日の東北地方太平洋沖地震および福島第一原発事故の発生から4ヶ月、今も収束のめどはたたない。この「東日本大震災」によって甚大な被害と尊い命が奪われた。人間が現存し生活する地球上において、ひとたび起きる災害は天災であるかのように見えるものの中にこそ人災が存在し、偶然ではなく必然性を持って人間に襲いかかってくる。

福島第一原発事故は放射能で汚染された水と空気を噴出し、日本が全世界の人々への加害者となった。私たちはこのことを心に刻み、被災者への支援と反原発のための闘いをさらに推し進めていこう。

5月27日、国土交通省は、JR東海に対して東京と大阪を結ぶリニア中央新幹線の建設を指示した。経済成長という名のもとに、「リニア中央新幹線構想」は国策として国家の意思へと高められたのだ。それは建設ありきで、自然破壊、電磁波の影響、財政問題などの様々な問題点は何らの解決もなされてはいない。このことを広く社会的に浸透させ「リニア中央新幹線建設」に反対するための闘う連帯の輪をさらにつくりだそう。

新自由主義政策によって、日本の政治的混迷と長期化する経済不況や空洞化は、300万人の失業者、200万人の生活保護受給者、年間3万人の自殺者という悲惨な姿で現れ、「東日本大震災」で益々先行きが見えず、多くの労働者は路頭に投げ出され、加速度的に貧困への坂道を駆け落ちようとしている。

そればかりではない、「東日本大震災」を機に実行された「トモダチ作戦」の展開や、「がんばろう日本」というスローガンのもとで、まさに国家総動員体制がつくりだされようとしている。

職場では事故やヒューマンエラーの発生に、現場労働者への責任追及と責任転嫁の姿勢は止むことがない。JR東海労に対する組織破壊攻撃も止むことはない。それは、資本の論理による支配的な階級意思を持った攻撃であるからだ。

2月1日、私たちはJR東海労運動を担う新たな仲間を迎え、組織拡大を実現した。職場における闘いをさらなる組織強化・拡大に結実するために共に邁進しよう。そして取り巻く否定的現実を変革し、安全・平和・人権・民主主義をかちとるために、すべての闘う労働者・人民と連帯するたたかいを強化しよう。

以上宣言する。

2011年7月10日

JR東海労働組合新幹線関西地方本部
第 1 7 回 定 期 大 会